

# ご近所の お医者さん

550

大阪鉄道病院  
婦人科副部長

坂井昌弘さん

＝大阪市阿倍野区

## 不妊治療について

不妊治療への公的保険の適用について議論がされているのは、ご存じでしょうか。

一般的に、避妊をせず通常の夫婦生活を行っている場合、80%のご夫婦が1年以内に赤ちゃんを授かることができるといわれています。つまり、結婚して1年たっても妊娠されない場合、妊娠しにくい原因を持っている可能性があります。

不妊の原因は、男性側に理由がある割合と、女性側に理由がある割合がほぼ半々で、不妊のカップルの割合は10



## 保険適用拡大道半ば

組に1組と言われています。女性側の不妊原因としては排卵がなかったり、子宮筋腫や子宮内膜症を合併していたり、過去に腹膜炎などにかかったことがあったりすると妊娠しにくいことが分かっています。男性側の原因としては精巣の炎症の既往、精子をつくり出

子に精子を受精させて子宮に戻すなどは現在保険適用がなく、比較的高額の費用がかかります。

現在、国内では16人に1人が体外受精で生まれ、妊娠する方法として一般的になってきているため、公的保険の適用範囲拡大が議論されるようになっていきます。しかし、不妊治療を受けやすくなったとしても、妊娠にはタイムリミットがあることを若い世代の方に知っていただくことが重要です。体外受精をしても妊

娠の成績は年齢とともに低下し、40歳を過ぎるとその傾向が顕著です。40代は働き盛りでまだまだ若いと考えがちですが、こと妊娠においてはそうではありません。反対に、年齢の若い方は、特に原因がないと診断されればそれほど焦る必要はありません。

不妊治療には、タイミング法、排卵誘発法など保険適用がある治療もありますが、人工授精(子宮内に直接精子を入れる)、体外受精(取り出した卵

不妊治療を考えられた場合は、まずはお近くの信頼できる婦人科の先生にご相談ください。